

新座市をキャンパスに！✦（プラス）となる人づくり、街づくり

2019.1.11

Vol.17

十文字学園女子大学
地域連携推進機構
(COCセンター)

COCニュースレター

研究活動報告

本学で取り組んでいるCOC研究プロジェクトについてお話をうかがいました

新座市の健康長寿に向けた取り組みとその評価に関する地域連携研究

◇代表者：加藤則子(幼児教育学科教授)

◇プロジェクト構成員：志村二三夫(学長)、長澤伸江(人間生活学研究科食物栄養学専攻教授)、井上久美子(食物栄養学科准教授)、布施晴美(人間発達心理学科教授)、富井友子(人間福祉学科講師)、名塚清(地域連携推進機構)、横山徹爾氏(国立保健医療科学院)、藤田誠一氏(健やか食育エコワーク)、新座市(介護保険課、長寿はつらつ課、国保年金課、保健センター)



- ・市民の健康状態を調査
- ・「にいざ元気アップ広場」に活用

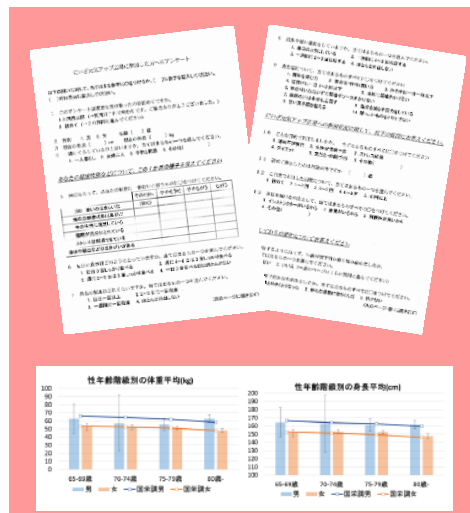
市の取り組みをデータでサポート

新座市が実施している健康増進のための事業「にいざ元気アップ広場*」の活動に対する評価の要望を受けて、参加者へのアンケート調査を実施し、その結果の分析を進めています。現在の生活習慣や健康状態、事業に参加した後の意識の変化等を調べるため、関連文献を参考に有効な質問項目を検討し、アンケートを作成・配布しました。

回答を分析した結果、現在の健康状態によって食事に対する意識や運動の頻度に差があることが明確になりました。また、参加後は「以前より歩くようになった」「気持ちが前向きになった」等の回答が多く、事業の効果を示すことができました。データは市と共有しており、継続発展に活用していただく予定です。

今後は本事業の調査分析を続けるとともに、新座市の健康長寿にいっそう貢献できる研究を科学的な観点から進めていきたいと考えています。また学生にも、参加者との交流を通して、地域の健康づくり事業に関する学びを深めていってもらいます。

*にいざ元気アップ広場・・・参加者が保健師や運動指導員、ボランティアスタッフと一緒に軽体操やレクリエーションを行う。市内の複数箇所で行う。



アンケート(全4P)と分析結果のグラフ(一部)

FD研修会を開催しました

11月21日(水)、COC地域教育開発部門主催のFD研修会を本学で開催し、教職員25人が参加しました。講師に(株)リアセックの灘氏を招き、本学学生のPROG測定結果をテーマにお話しいただきました。

講演内では、リテラシーとコンピテンシーの数値について直近4年間の測定結果や、1年次～3年次の経年変化から読み取れる各年度・学科の特徴を解説し、それを踏まえた各学科の課題と今後の対策案について説明がありました。灘氏からは「PROG測定は学修成果を可視化するもの。ぜひ活用してほしい」、安達(一)部門長からは「今回の分析結果を、今後に向けた検討材料にいただけたら」とお話がありました。

3/2(土)

「地域連携シンポジウム～COC事業の成果と今後の展開～」を開催します

♪日時・会場：3月2日(土)13:30～16:00 本学431教室

♪問い合わせ：本学 地域連携推進課

TEL:048-477-0958(平日9～17時) HP: <http://www.jumonji-u.ac.jp/coc/>

♪プログラム♪

▼開会挨拶 学長/地域連携推進機構 機構長 志村 二三夫

▼来賓挨拶 新座市長 並木 傑氏

▼基調講演 ①新座市教育委員会 教育長 金子 廣志氏

②園田学園女子大学 児童教育学科教授 大江 篤氏

▼成果発表

* モデレーター：地域教育開発部門長/メディアコミュニケーション学科教授 安達 一寿
幼児教育学科准教授 鈴木 康弘、食物栄養学科講師 金高 有里
児童教育学科教授/地域連携推進機構 機構長代理 星野 敦子
幼児教育学科教授 上垣内 伸子

▼閉会挨拶 企画担当副学長兼学長補佐 綿井 雅康

学生の地域貢献活動を紹介します

身体表現を通して地域と交流



動きに「正解」はなく、全員が自由に表現する



学生が作成したワークショップのチラシ

障がいのある方とない方が共に創造する身体表現のワークショップに、COCプロジェクト「身体活動による新たな地域交流の形成と、教員を目指す学生の資質向上の取り組み」(代表: 日出間均教授)の活動として、児童教育学科と食物栄養学科の学生が年間を通して参加しています。

ワークショップでは太鼓や足踏みなどの音を聞き、全員が自由に身体を動かします。決まった振り付けや型はなく、他の参加者の動きを見て取り入れ、自分なりの動きに発展させるなどして、それが自然とダンスになります。また、障がいのある方を含め地域の様々な方とペアを組み、言葉ではなく身体表現で『会話』をすることで、相手との交流を深めていきます。

児童教育学科の2年生は、「感じたことをすぐに動きで表現できるのが面白い。新しいことに対するチャレンジ精神が生まれた」「普段接しない方と触れ合う貴重な体験。参加者一人ひとりの個性や気持ちを知らうとすることは、将来教員になった時にも活かせると思う」と語ります。

1月20日(日)に新座市中央公民館で公開ワークショップを開催します。詳細は児童教育学科の久保田葉子講師まで。

新座の食材で北海道を復興支援

12月9日(日)、食物栄養学科の金高ゼミ生が、新座活性化および北海道地震の復興支援を目的とした「からだにベジプラスプロジェクト」を野火止ふるさと広場で開催し、弁当や石狩鍋、スイーツなどを販売しました。本学COCプロジェクトとして地域



の食材を使った商品開発に取り組んでいたところ、金高講師の前任地である北海道が被災したニュースをきっかけに、学生たちはその支援を兼ねた弁当の作成・販売を考案。新座産の野菜や連携団体が栽培した無農薬米のほか、北海道の郷土料理も盛り込んだ「新座野菜deけっぱれ弁当」が完成しました。当日の収益は北海道の被災地へ寄付をします。

地元の米やマコモタケ、野菜をたっぷり使った弁当



ベトナムの味 新座で召しあがれ

11月11日(日)、新座市役所駐車場で開催された「国際交流デー」に、本学大学院国際栄養学研究室(山本茂教授)に在籍するベトナムからの留学生が参加しました。

各国料理の模擬店が並ぶ中、民族衣装のアオザイを着た学生たちは母国の伝統料理『揚げ春巻き』を販売。

「有意義な国際交流の機会になった。今後も交流の懸け橋となるように頑張る」と感想を話していました。

揚げ春巻きのレシピや大学院での研究活動をパネルで紹介



エネルギーとわたしたちの関係って?

11月25日(日)、本学にて“エネルギー”をテーマにした食育活動を実施しました。本イベントは、食物栄養学科の井上ゼミ生が、指導案の作成、準備、当日の進行すべてを担当。参加したイオン新座店チアーズクラブの小学生に、人間は食べ物(=動植物)からエネルギーを摂取し、運動だけでなく基礎代謝によってもエネルギー消費をしていることなどをわかりやすく説明しました。最後は動植物の生育環境を守る必要性に話をつなげ、そのためにできることを小学生から発表してもらいました。

学生は子どもたちの反応にやりがいを感じたと共に、「事前準備の大切さを学んだ」「反省点を次に活かしたい」と今後の課題を見つけた様子でした。



講義のほか、豚汁と混ぜご飯の調理実習も実施

浄瑠璃・文楽って面白い! ~三浦しをん氏公開講座を開催~

11月3日(土・祝)に、直木賞作家の三浦しをん氏を講師に招き、公開講座「先生!...私を伝統芸能好きにしてください」を開催しました。

第1部では、今年出版された小説のお話をはじめ、これまでの著作や執筆にあたっての取材方法などを語っていただきました。第2部は三浦氏も自身の作品で取りあげた浄瑠璃・文楽などの伝統芸能をテーマに、日本近世演劇研究者の鳥越文蔵氏、本学客員教授の渡辺保氏を交えた鼎談が行われ、文楽の面白さなどについての話が繰り広げられました。参加者からは「内容がわかりやすく、文楽を身近に感じた」との声が寄せられました。

講座の後は、三浦氏を囲んだ「茶話会」を開催。文芸文化学科の学生や教員のほか、講座に出席した高校生も参加し、交流を楽しみました。



編集後記

今回、身体表現のワークショップに参加した学生が、「現場では『間違っはいいけない』、『恥ずかしい』という感情を忘れて、自由に身体が動くから不思議です」と話してくれました。学外で新しい自分に出会えることも、COC活動のひとつの成果だと感じました。